復興庁主催

3年半の
軌跡

人と企業が集い、育ち、
活性化する地域を実現するモデルの確立！

復興・創生インターン

事業報告書（概要版）

のべ525社
が参加しました!!

オンラインでも実施しました！

参加学生
1,018名

復興庁
Reconstruction Agency
新たなステージ　復興・創生へ

被災地企業・団体の経営課題に対し、経営者と学生が力を合わせ、課題解決プロジェクトに挑戦する

実践型インターンシップ

「復興・創生インターンシップ」とは、岩手・宮城・福島の被災地域で経営者の右腕となり、単なる就業体験に留まらず、被災地の企業が抱えている経営課題に対して、経営者と学生が協働し、解決に取り組む実践型のインターンシッププログラムです。学生（※1）は、約1か月間、被災地で共同生活を送りながら就業体験することで、キャリア観が醸成され、課題解決能力が向上するなど、地元企業と学生が共に成長していくことを目的としています。

その内容は、各地の地域コーディネート機関（※2）が、地域・企業に合ったプログラムを策定し、学生は、復興に懸命に取り組む人々や地域で活躍する人々と交流を交えながら、インターンシップを進めていきますので、全国の学生に、被災地域（対象地域）（※3）の魅力を感じてもらうことも可能となります。

その結果、受入企業は、日頃取り組みたくても手を付けることができない経営課題の解決に学生と協働して取り組むことにより、人材獲得力及び育成力を向上させ、人手不足の解消を図ることができるなど、受入企業を活性化させ、更なる成長を促します。

また、本事業は、「人と企業が集い、育ち、活性化する地域を実現するモデル」を確立することを目指して実施しています。

なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、オンラインによる実施となりました。

地域コーディネート機関が企業、学生に伴走します！

（地域コーディネート機関の一覧は裏表紙に記載）

プログラムの流れ

企業募集 ▶ **プログラム策定** ▶ **学生募集** ▶

復興庁から委託を受けた地域コーディネート機関が、地域から参加企業を募集します。

参加企業へのヒアリングを経て、地域コーディネート機関がインターンシッププログラムを策定します。

全国から参加学生を募集し、地域コーディネート機関が面談を行います。

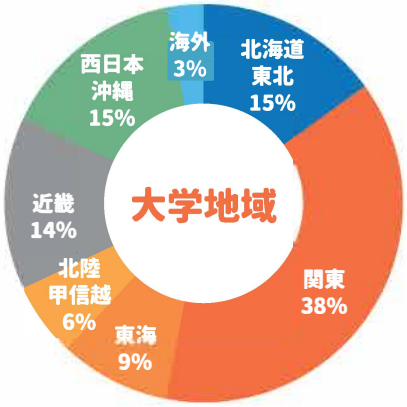
目次

2　「復興・創生インターンシップ」の概要
4　PICK UP　岩手県 サンコー食品株式会社
6　PICK UP　宮城県 株式会社ヤマウチ
8　PICK UP　福島県 株式会社やまと
10　自治体からの声
12　参加企業の声・プロジェクト例
14　参加大学の声

参加学生 1,018 名　参加企業 のべ 525 社

（2017 年度～ 2020 年度前半）

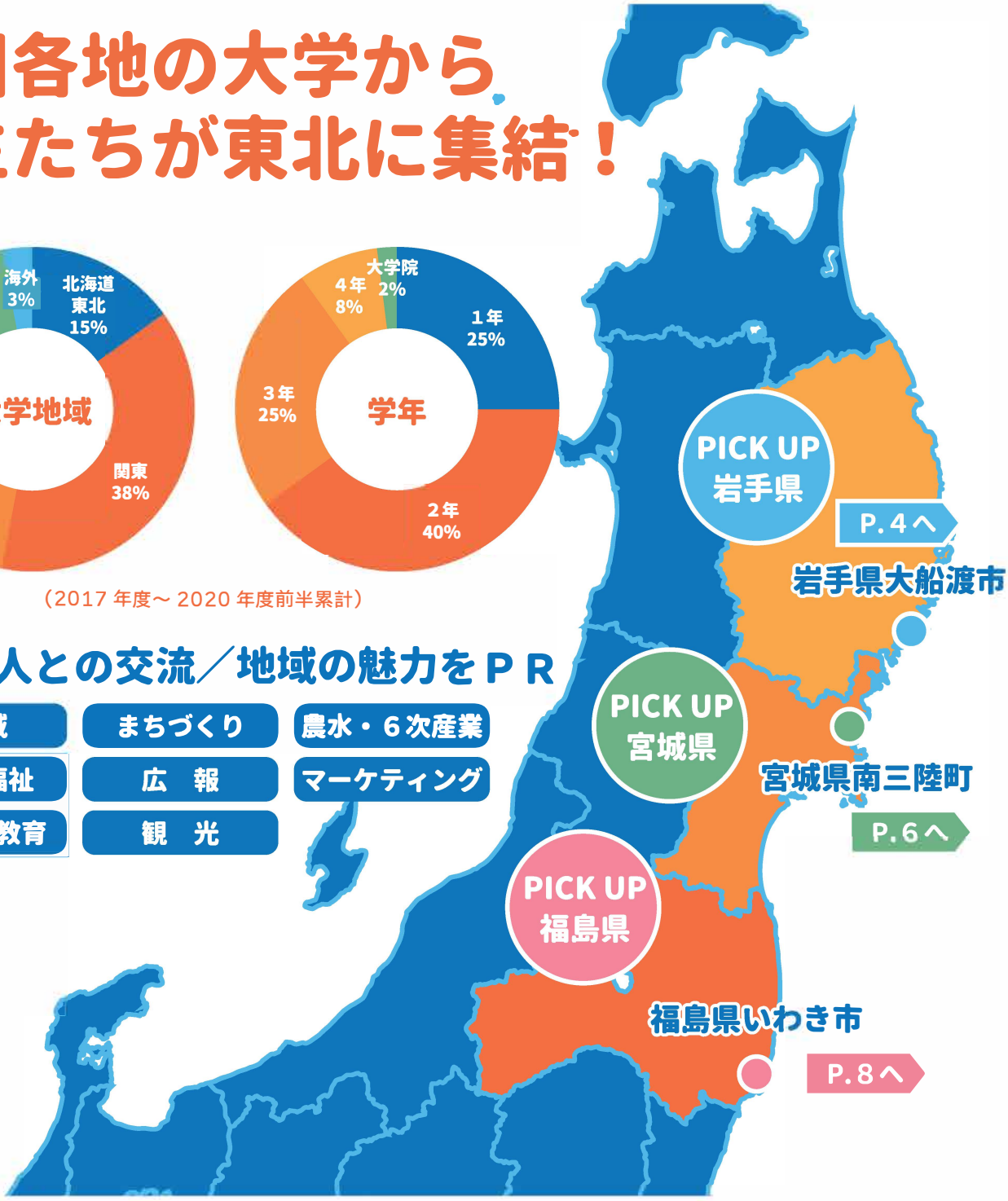
全国各地の大学から学生たちが東北に集結！



（2017 年度～ 2020 年度前半累計）

地域の人との交流／地域の魅力をＰＲ

- 地　域
- 医療・福祉
- こども・教育
- まちづくり
- 広　報
- 観　光
- 農水・６次産業
- マーケティング



（※１）全国の大学院生、大学生、短期大学生、高等専門学校生（４年生以上）（※２）被災３県に根付いた団体の名称。令和２年度は 14 ブロック 17 団体が参加
（※３）岩手県、宮城県もしくは福島県の沿岸市町村又は福島県の原子力被災 12 市町村

マッチング ▶ **オリエンテーション 事前研修** ▶ **中間研修 経営者等との交流会** ▶ **社内報告・成果発表会**

受入企業との面接を経て、受入企業・学生の双方合意の上、参加者を決定します。

オリエンテーションや事前研修を経て、実習がスタート。地域コーディネート機関のサポートを受けながら、課題解決にチャレンジします。

インターンシップの折り返し地点で中間研修を行い、残りの実習に向けて経営者等との意見交換を行います。

インターンシップの成果をまとめ、社内報告をします。また、地域の方々や関係機関等が参加する成果発表会を行います。

PICK UP
岩手県

求む「イカ」プロデューサー

商品開発で水産の未来を拓け！

イカ加工品の品質改良とメニュー開発で、水産食品の魅力を発信せよ

お話を伺った人

小濱 健 さん

サンコー食品 株式会社
代表取締役

【企業データ】
受入団体名：サンコー食品株式会社
設立：1981 年　代表者：小濱健
従業員数：40 名　所在地：岩手県大船渡市大船渡町字下船渡 104 番地
URL　https://sankoufoods.co.jp

また手を挙げたい、チャレンジしたい、いいことしかないから。

最初は「インターンって人を集めるためのイベントだろ、企業が学生さんに、社会ってこんなに厳しいんだよ、と教えることがインターンだろ」それくらいにしか考えていませんでした。でも１回目のインターン生がいい意味で期待を裏切ってくれました。その子たちが涙を流しながら本気で取り組んでいたから、こっちもついつい巻き込まれてしまって……。こういう姿を見て、「あ、このインターンは違うな」すぐにそう思い直しました。

始めてみると自分の学びに、最後は「インターンロス」

私自身も震災を通じて辛い思いをしてきて、色んなことを学んできたつもりでいましたが、インターン生と関わる中で、「あいつら凄いな」と思って、自分の未熟さを感じさせられました。

プログラムが終了する時には、もうこいつらに帰ってほしくないと、花嫁を送り出す父親のような気持になって、ついお風呂で一人泣いてしまいました。

今では、インターン生が書いてくれた記事のおかげで採用も進み、人材を紹介されることも増えてきましたし、いいことしかない。このプログラムには感謝しかない。機会があれば、またぜひチャレンジしたいです。

インターンシップ概要

イカ原料の品種改良と加工品活用メニューの開発・提案を行い、三陸・水産の食と仕事の魅力発信に取り組む。

STEP 1（1週目）

●企業理解、情報収集
事業・企業理解、社員との関係構築
水産加工品に関する情報収集

STEP 2（2～4週目）

●品質改良と料理作り～魅力発信
企業との打合せ、品質改良の試行
メニュー開発、水産の魅力発信

STEP 3（5～6週目）

●開発商品の提案と魅力発信
試食会実施、改良品のプレゼン
加工品活用メニュー提案

参加学生の声

鈴木 望記子 さん
（福島県出身）
尚絅学院大学総合人間科学部
2018 年度夏参加

田中 樹里 さん
（兵庫県出身）
武庫川女子大学文学部
2019 年度春参加

大学２年生、やるなら今、チャレンジするなら今しかない。

鈴木：海が好き、田舎が好き、興味を持ったのはそんな理由からでした。学年が上がるにつれて忙しくなるよ、と言われ、何かにチャレンジするなら今しかない、そんな思いで参加を決めました。
田中：これからどうしようかな？　そう思っている時に学内の説明会を聞いて参加を決めました。入試で失敗したこともあり、大学に入ったら何か大きなことをやり遂げたい、そう思っていましたので、「これだ！」直感的にそう思って決めました。

消極的な自分、社員の方達とうまく関わっていけるのか？

田中：最初は、社員の方達とどうやって関わっていけばいいのか全然わからなくて。元々性格的に、自分から話すことが苦手で……。コーディネーターの方に相談したら、「そのままを社長に相談してみたらいい」って言われて、思い切って相談してみました。そうしたら、少しずつですが、自分からも話せるようになっていって。自分から発信することで物事が早く進むようになったと思います。私はインターン期間中ずっと、人間関係をどう進めたらいいのか、就職も含めてこれからどうやっていけばいいのか葛藤していたんです。だから、このプログラムで発信できたのは大きかったと思います。やっぱり自分から発信すると、相手から跳ね返ってくるものがあるし、そのことで人間関係ができていくんだなと、発見がありました。
鈴木：私も商品開発をしているときに、他のインターン生とのコミュニケーションで悩んでいて。自分自身で壁をつくっていたなと今では後悔しています（笑）

将来の選択肢が増え、就職活動の軸ができた。

鈴木：印象的なのは、大事なプレゼンテーションの時に、社長から背中を押してもらったことです。思い切って自分の気持ちを素直に話してみたら、周りの人達からすごく褒められて。初めての経験でした。
田中：社長や社員の方々との距離が近い分、一つ一つの仕事の目的とかその意味がわかってきて、そうすると、やる気も出るし、役に立てているんだなって感じられて、どんどんやる気が高まって行きました。
鈴木：人を巻き込んで、人をまとめて活動すること、実は私、嫌いじゃないんだって、発見しました。これからは、自分の力を発揮できるところで働きたいと思いました。
田中：まだ２回生、まだ色々なことが考えられる。これからも失敗を恐れずにやっていきたいなって思います。

実施の背景

イカは東北地方にとっては「地のもの」。様々な食べ方ができる身近な食材であるため、業務用冷凍加工品として全国に出荷されている。近年では、国内イカの水揚げ量低下に伴い、海外産のイカの仕入れ・加工も行っているため、イカ原料の品質改良と加工品活用メニューの開発・提案を行っていた。三陸・水産の食と仕事の魅力発信に取り組み、地元大船渡の雇用と土地の素材を守り、国内企業ならではの安全性・利便性を訴求し、信頼してもらうことを主軸に、新たな提案と、積極的なアクションを期待。

八田 浩希 さん
特定非営利活動法人 wiz

地域コーディネーターから一言

関わることで生まれるつながりが大事

100 点満点の完成形を求めず、学生さん、企業さんと一緒に行動しながら考えトライしていくことを大切にしています。このプログラムでは、学生、企業が一緒にチャレンジすることで、様々なつながりが地域に生まれます。学生さんたちがこれだけ想いを持って岩手に関わってくれ、また戻ってきてくれることは、地域にとって大切な財産だと思います。

この子たちのように、移住や就職を将来的な選択肢として持ち帰ってもらうと、長期的に移住や定着も促進していくと思います。私達自身がマインド、価値観を変えていかなければいけないと思います。

PICK UP 宮城県

全社員で商品企画

地域から圧倒的商品を生み出す新しい商品開発体制を確立せよ！

商品開発に社員を巻き込み新たな風を起こせ！

お話を伺った人

山内 淳平 さん

株式会社 ヤマウチ
取締役

【企業データ】
受入団体名：株式会社ヤマウチ
設立：1988 年　代表者：山内淳平
従業員数：47 名　所在地：宮城県本吉郡南三陸町志津川字御前下 20-6
URL https://www.yamauchi-f.com

面白そう、楽しそう、で始めてみたら、社員が育ち、会社が変わった。

他社のインターンを手伝う機会があって、楽しそうだな、面白そうだなと思ったのがきっかけです。１か月とはいえ、やる気のある大学生が来ると、会社の雰囲気が変わるんじゃないか、何か会社にいい影響があるんじゃないかと思って参加を決めました。実際に他社のケースを見ていたので、うちもやったら面白いことになりそうだ、と最初はそんな軽い気持ちでした（笑）でも実際来てみたら最悪だった、とは思われたくなかったので、社内の準備はしっかりやっておきました。

優秀でやる気のある学生が来ると会社が変わる。

実務的なノウハウが得られたのはもちろんあるのですが、そんなことより、新しい考え方というか、会社に若い社員がいる、という疑似体験ができたのはすごくよかったと思います。いずれは、当社でもこんな優秀な人間を採用できるような会社になりたいと、インターン生を受け入れてみて、強く思いました。もっと仕事を頑張ろうというか、会社のレベルを上げていかないといけないと思うようになりました。受け入れる前とでは、社内の意識は全然違いますよ。優秀でやる気のある学生と一緒に会社の課題にしっかり向き合うと会社が変わるということを、このプログラムを通じて痛感できました。

インターンシップ概要

より若いターゲットにヒットさせるためのリサーチから、web & リアルでマーケティング活動を実施。戦略レポートを提案します。

STEP 1（1週目）

●背景整理、ゴール設定
情報共有、企業の現状理解
中小企業の現状や課題を理解

STEP 2（2週目）

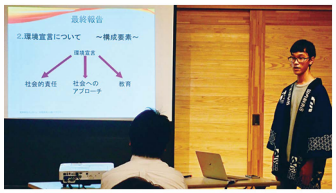
●社内ヒアリング
現場での気づきを整理
社内ワークショップの企画

STEP 3（3週目）

●商品開発の理念の浸透
共通認識を醸成、開発理念を明文化

STEP 4（4週目）

●会社の商品開発手法提案
社員が自分事として関わることができる商品開発とは



参加学生の声

今野 汐里 さん
（宮城県出身）
早稲田大学商学部
2018 年度春参加

吉村 哲哉 さん
（奈良県出身）
立命館大学経済学部
2019 年度夏参加

佐藤 奏音 さん
（茨城県出身）
筑波大学国際総合学類
2017 年度春参加

課題に特化した内容が魅力、震災のことも学びたい。

今野：地域にどっぷり浸かって、課題解決にフォーカスできる経験がしたかったというのが一番です。私は宮城県出身で、宮城・東北、特に食産業の発展に携わる機会があるなら挑戦してみたいと思いました。
吉村：夏休みには特に予定がありませんでしたし、１か月行けるので現地の震災のことも学びたい、挑戦しようと思いました。
佐藤：海外でボランティア活動をしようと思っていましたが、両親から反対されて……。だから、実家から離れ、費用がかからない長期滞在プログラムを探していました。自分は震災直後に海外に引っ越し、何もできなかったというような心残りもあったので参加を決めました。

視野が広がり、大切なことに気づけた。

今野：色んな人の意見を聞いて、何のために、なぜ、何をやるのか、考え続けることが、問題解決の醍醐味だと思いました。
吉村：環境や SDGs 等、どうしたら社会貢献できるか考えていましたが、参加してみて、一人の力では何事も進まないんだと思いました。苦労もあったけど、その分成長もできたという印象です。色んな専門家の方達のお話が聞けましたし、海や生物のことも学べて、それを食べられたのもいい経験になりました（笑）
佐藤：視野が広がり、新しい興味が生まれて、今までなかった選択肢を与えてもらえたと思います。ヤマウチという企業を知って、南三陸という町を通して、自分は地域に興味があるかも、と気づきました。

学生の意見を真剣に受け止め、一緒に動いてくださる人たちがいた。

今野：一番印象に残っているのは、自分達が描いている理想と、現場での現実とのギャップを埋めていく過程です。社員の方達との関わりを重ねるうちに、視野が変わった、そんな感覚がありました。
佐藤：素人である学生の言うことを 100％聞いてくださる態勢が、ヤマウチにはあって、そんな会社の姿勢が本当に嬉しかった。ただ単に NO と言うのではなく、なぜそれが出来ないのか、丁寧に説明してくださった。学生の意見を真剣に受け止めてそれを形にしようと一緒に動いてくださったから、モチベーションを保ちながら、努力し続けることが出来たのだと思います。

実施の背景

株式会社ヤマウチが経営する山内鮮魚店は、創業 60 年以上、南三陸の食材と無添加にこだわる食品加工メーカーとして認知され「ヤマウチ」の愛称で親しまれる老舗企業。インターネット販売を展開、顧客データベースを導入し SNS を通じた情報発信にも熱心に取り組んでいたが、新規顧客、特に若年層の開拓が課題となっていた。鮮魚は年や時期に応じて水揚げ量が上下するため、加工品の売上向上で経営の安定を求めていた。社員とともに社内データをフル活用し、若者の心を掴むマーケティング戦略を導き出したい。

太齋 彰浩 さん
一般社団法人
サスティナビリティセンター

地域コーディネーターから一言

ノウハウは貯まっている。それを地域に活かす仕掛けを。

正直、私はあまり苦労した覚えがないんですよ、みなさんが頑張ってくれたので（笑）ただ、地域にとって、老舗の山内鮮魚店さんがインターンを受け入れたのは大きい。そこで成果をあげて頂けたというのは、学生にも励みになるし、我々にとっても有り難い。
学生を受け入れることで地域や会社が盛り上がっていく事例を作って頂けました。ノウハウは貯まっているので、あとは解決したい課題や、経営者の思いとマッチさえすれば、できることはたくさんある。これからは地域で優秀な方を受け入れて、その人達のキャリアアップになるような仕掛けを考えていきたいと思っています。

PICK UP
福島県

「コロナ禍の今だからこそ」の マーケティング戦略を作り出せ！

いわき駅前にオープンしたまま宿泊営業自粛中のゲストハウス「FARO」。
with コロナの対応、アフターコロナへ向けたマーケティング戦略を立案せよ！

お話を伺った人

北林 由布子さん

株式会社 やまと
代表取締役

【企業データ】
受入団体名：株式会社やまと
設立：1949 年　代表者：北林由布子
従業員数：５名　所在地：福島県いわき市平字三町目 8-2 やまとビル１階
URL https://faro-iwaki.jp/

学生達が、決断を促し、心のよりどころをつくってくれました。

2018 年春のインターンでは、まだゲストハウスがオープン前でしたので、彼らがリサーチした結果や、彼らとの交流への反応がすごくよかったことから、この街にゲストハウスが求められているなと確信できました。営業を始めたら、来訪してくれた人を、街の人はこういう風に受け入れてくれるな、とリアルに感じられたので、オープンへの決断を後押ししてもらえました。

学生には「コンセプトだけでも見つけられたら」と思っていました。でも始まってみたら、自分達で考え、どんどん進めてくれて、気づいたら街の人と仲良くなっていて。インターン期間中は、学生が歩く姿が毎日街中にあるという、いわきにとっても素晴らしい体験ができたと感謝しています。

そんな後押しも受けて、2020 年 4 月にはようやくゲストハウスをオープンさせることができましたが、新型コロナの感染拡大で、営業的にも難しい舵取りを迫られました。そんな中で、2020 年夏に参加した学生が作ってくれた大学生向けの "5 days sharehouse plan" は満足度が高く、「こんなにも交流ができるなんて」「こんなに楽しめたのは初めて」と好評で、参加された方達は、宿泊だけでなく、必ず地元のどこかに立ち寄ってくださって、SNS への発信もしてくれて、「またいわきに帰ってきます」と言ってくれる、とても価値のあるプランとなっています。

インターンシップに参加した学生、そして彼らが創ってくれたプランに参加した方達もみんな「また来ます」と言ってくれることが、今では私自身の心のよりどころ、励みになっています。

インターンシップ概要

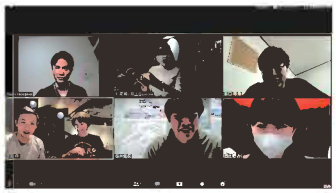
2020 年夏は、在宅オンラインでのインターンシップを基本として進めながら、新型コロナウイルスの収束状況に応じて滞在型も取り入れて進行。

STEP 1（事前課題）

●事前リサーチ
様々な媒体での企業の発信内容をリサーチし、レポート。

STEP 2（1週目）

●地域理解
いわき市について web 情報で調査し、レポート。



STEP 3（2～3週目）

●マーケティング戦略立案
リサーチ情報をもとにマーケティング戦略を立案。

STEP 4（4週目）

●戦略の実行
立案した戦略を実行し、効果測定と振り返りを実施。

参加学生の声

2018 年春　現地でのインターンシップ

谷口：大学で学んでいた建築や経営のアウトプットができる機会を探していました。地域のことを知らないと何もできないと、とにかく足を使って色んなところに出向いて、様々な人達に話を聞いて回りました。役所の人や、町内会長と話をするときには緊張しましたが……。
石井：ゲストハウスが好きで、友達から誘われ参加を決めました。ちょうど大学で専攻している建築へのやる気が無くなっていた頃でしたし、「１か月間ゲストハウスに関われるんだ」と思うととてもワクワクしました。いわきには、若者を受け入れてくれる土壌、ステージがあって、活躍できる機会を与えて頂けて感謝しています。

2020 年夏　オンラインで始まる

長谷川：観光に興味があり京都の町家ゲストハウスでアルバイトをしていました。新型コロナの影響で業界全体が、収束まで何もできないという状態でしたので、このインターンを知って、すぐに参加を決めました。いわきのこととか全くわからない状態でしたので、まずは、いわきのことを知ろうと、みんなでリサーチを始め、「ゲストハウスって結構知られていないんだ」ということがわかりました。どうしたら知ってもらえるのか、利用してもらえるのか、そこからみんなで考え始めました。
日比野：私は元々人の話を聞くタイプではなかったのですが、人の意見を聞くことを学びました。みんなで１つのことを一緒になって考える、貴重な機会でした。

大学生活のターニングポイントに 自信がついた、生きていく方向・ビジョンが見えた いつかまた、いわきに関わりたい。

谷口:いわきの温かい人たちと触れ合って、やる気が出て自信がつきました。人とのつながりが大切だと思い、今はシェアオフィスの運営を始めようとしています。
石井:やっぱり建築をやりたい、いわきに関わったことで、そのことに気づき、生きていく方向性がみえた。いつか建築家としていわきに戻ってきたい。
長谷川:自分達が作ったもので人が感動してくれた、大学生が作ったもので、人が大きく動いた、この体験はすごく大きかった。将来、地域創生に関わったり、発展途上国の社会課題を解決させたいとか、色々と将来のビジョンが見えました。
日比野：私にとっては、大学生活のターニングポイントとなる貴重な経験でした。地元を出て都市に行きたいと思っていましたが、地方もいいなと。今、地方や観光について学びたいと資格取得に向けて挑戦しています。

谷口 琢海 さん
（大阪府出身）
立命館大学経営学部
2018 年度春参加

石井 健成 さん
（宮城県出身）
工学院大学建築学部
2018 年度春参加

長谷川 拓実 さん
（大阪府出身）
龍谷大学経済学部
2020 年度夏参加（オンライン）

日比野 みく さん
（和歌山県出身）
立命館大学経済学部
2020 年度夏参加（オンライン）

実施の背景

2016 年に始まったこのプロジェクトのきっかけは大型ショッピングモールの建設計画。「このままでは駅前商店街が死んでしまう」との思いで手探りを繰り返すうちに、少しずつ仲間が増え、地元の商店会にも浸透していった。いよいよオープン、というタイミングでの新型コロナウイルス。感染拡大防止のため、宿泊事業の延期を決定。やむなく１階ラウンジカフェで飲食、テイクアウトのみの営業を開始。ゲストハウスはオープンできずにいた状態であった。

森 亮太 さん
一般社団法人
TATAKIAGE Japan

地域コーディネーターから一言

学生のうちにどれだけ面白い大人に出会えるかで将来が変わる

北林さんは、コーディネーターがお手伝いすることが無いほど、学生と上手に接していらっしゃいました。学生たちが、街の人達や様々な専門家など、多くの人達と頻繁に触れ合っている姿が印象的でした。これから社会に出ていく学生さんたちにとっては、学生の間にどれだけ面白くて熱い大人に出会えるかがとても大きいと思います。たった１か月ですが、ここで得られた体験や色んな人達とのつながりで、きっとこの先が変わって来るんだろうな、と思います。「いわきが好き」そう言ってくれているみんなが、将来、ふと思い出した時に、旅行でも何でもいいので、また、いわきに関わってくれたらうれしいです。

自治体からの声

地域の文化や風習を生かし、新たな魅力を引き出す。

本事業では、現地に根ざした地域コーディネート機関が、受入先企業が抱える経営課題の解決に向かって、受入先企業の担当者ならびにインターン生（学生）と共に取り組んでいます。インターン生の地域理解を深めるべく、自治体をはじめ、受入先以外の地域企業や地域の方々とも交流機会を創出しながら、受入先企業とインターン生にとどまらず、行政と企業、企業同士のつながりを強化してきました。本事業はいつしか受入先企業の課題解決を通して、地域課題の解決そのものに直結したともいえる存在に変貌を遂げました。ここでは、地域コーディネート機関と共に、日に陰に本事業を支え、伴走してくださった自治体関係者のみなさまからの声をご紹介いたします。

地域コーディネート機関（17 団体）

岩手県 【北三陸ブロック】（株）バリューシフト【宮古ブロック】（特非）みやっこベース、（特非）wiz【釜石ブロック】（株）パソナ東北創生【大船渡・陸前高田・住田ブロック】（特非）wiz
宮城県 【気仙沼ブロック】（同）colere（これる）【南三陸ブロック】（株）ESCCA、（一社）サスティナビリティセンター【女川ブロック】（一社）ワカツク、（特非）アスヘノキボウ
【石巻①ブロック】（同）巻組、（一社）ISHINOMAKI2.0、（同）トイデザイン【石巻②ブロック】（一社）フィッシャーマン・ジャパン【仙台・名取・岩沼ブロック】（一社）ワカツク
福島県 【相馬・双葉郡北部ブロック】（特非）相馬はらがま朝市クラブ【郡山・阿武隈ブロック】（特非）コースター【葛尾ブロック】（一社）葛力創造舎
【いわき・双葉郡南部ブロック】（一社）TATAKIAGE Japan

観光地ではない、等身大の女川の魅力を再発見。

青山 貴博 さん
宮城県女川町
公民連携室

このインターンシップには、プラスはあってもマイナスは無い

女川町に縁もゆかりも無い若い人が訪れ、地域課題について、同じ目線で試行錯誤しながら、解決に向けて取り組んで頂けたこと、ありがたいのはもちろん、嬉しく思います。どうしても保守的になりがちなところを新たな視点により多くのヒントが得られました。このインターンシップには、数えきれないほどのプラスはあっても、マイナスは無いと思います。

学生が、当たり前と思っていた地域の大切な存在に気づかせてくれた

回を重ねるごとに、当たり前だと思っていたことに、目を向けるきっかけを頂けました。例えば、女川の老舗スーパー「おんまえや」。震災の津波被害により、移動販売車や仮店舗で営業を続けていました。人口減少が続く女川町唯一のスーパーが、街の方に愛されるお店として再建する企画をお願いしたところ、大手にはない魅力や代々受け継がれてきた想いを大切にして、女川の味を生かした総菜や高齢者に配慮したお店づくりに活かしてくれました。地域にとって大切な存在、残すべきもの、応援したいところを盛り立ててくれました。

インターンで得られた学びを実践していくことこそ私たちの使命

「復興の道のりを通じて（地方が）新たな価値観を生み出していくこと。」官民連携で「住み残る町」、「住み戻る町」、そして「住み来る町」にしたい。震災復興の様々な段階でインターン生が、観光地ではない女川という町を肌で実感し、交流できたことが何よりの財産だと考えています。このインターンシップがきっかけで、行政と企業、企業同士が同じテーマ・課題を話し合えるようになりました。インターンシップを通じて得られた学びを実践していくことが、これからの私たちの使命だと思います。

大学生が触媒となり、地域の土壌を耕す。

石井 重成 さん
岩手県釜石市役所
オープンシティ推進室長

復興・創生インターンシップは、地域ビジョンを象徴する事業

三陸のオープンシティとして、地域内外の良質な交流を通じた新たなコミュニティ形成・経済価値創出を目指す釜石市にとって、復興・創生インターンシップは地域ビジョンを象徴する事業のひとつです。このインターンシップを通じて、数多くの学生に出会ってきましたが、皆さん一人ひとりの挑戦に心から敬意を表します。

大学生が“触媒”となり小さな変革が創発的に生まれてきた

市外・県外の大学生が“触媒”となり、地域企業・ＮＰＯとともに新しい挑戦に取り組むことで、新規事業・企画の立案や、組織の人材育成・風土への意識変容など、小さな変革が創発的に生まれてきました。こうした多様性を受容する地域の土壌を耕す取り組みこそ、本質的な地方創生の「一丁目一番地」であると考えています。

将来にわたって釜石地域に残していきたい事業だ

これまで中長期・実践型インターンシップの実績を踏まえ、将来にわたって釜石地域に残していきたい事業だと考えています。ただ、本事業の性質上、企画推進にあたっては官民パートナーシップが不可欠であり、現時点では、地域側の中間支援機能をどのように確立していくのか、関係者間における財政負担のあり方、等が今後の論点として残されていると認識しています。

企業・団体の意識改革が、真の復興に向けた原動力に。

吉田 貴城 さん
福島県いわき市
総合政策部政策企画課
企画調整係
事務主任

真の復興に向けて力強く進む原動力になった

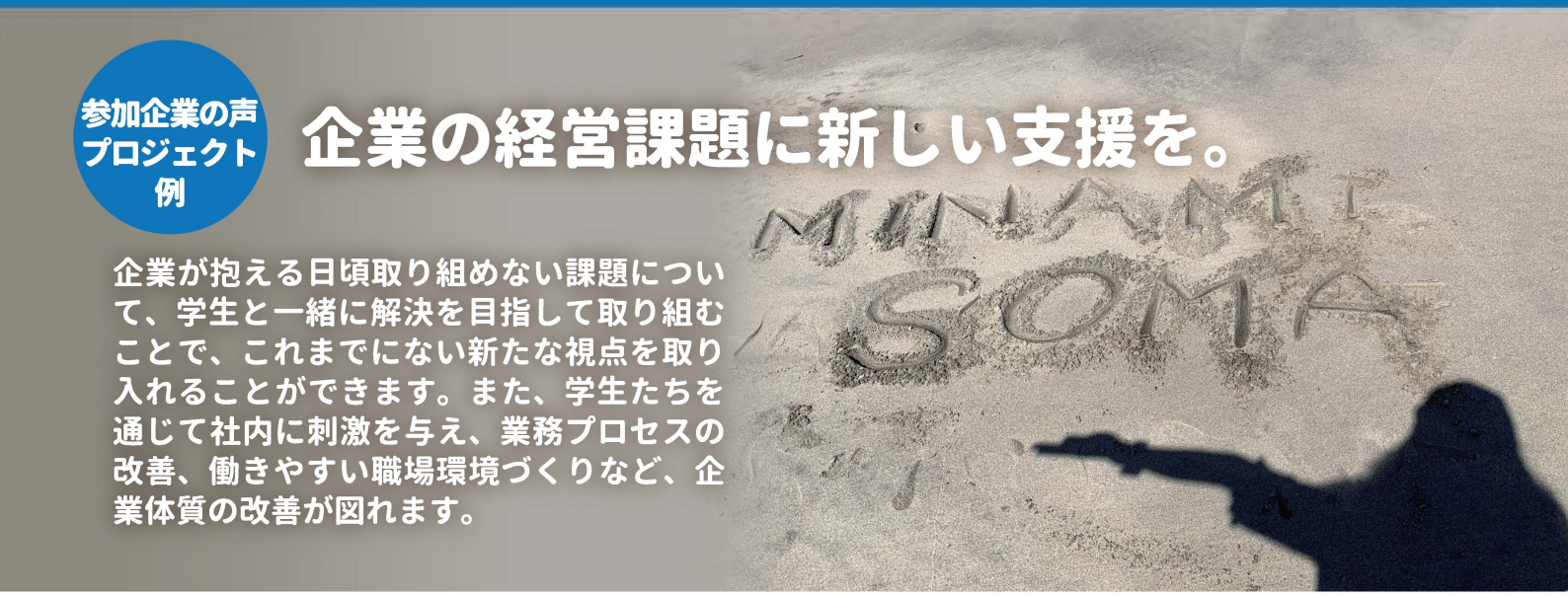
東日本大震災以来、津波被害や原発事故等の影響により、地域の活力低下が危惧される状況でした。その中で、「一般社団法人 TATAKIAGE Japan」をはじめ、本市出身の若者達が、復興の新たなけん引役として大きな力を発揮して頂きました。そうした取り組みに呼応する形で、市外出身者の方も含め、本市に興味を持っていただいた方の前向きな姿が、地域の企業・団体の方の大きな励みになり、真の復興に向けて力強く進む原動力になったと考えております。

企業・団体と若者が、共に受け入れ、共に高め合う気運が高まった

震災以降、復興・創生インターン事業の効果もあり、まちづくりに意欲的な若者の存在がクローズアップされ、企業や団体活動の中で、若い力を積極的に伸ばし、生かしていこうという気運が高まったと感じています。また、若い世代の方々に本市の現状･課題･魅力を知って、関心を持ってもらうことに加え、受け入れる側の企業や団体の意識改革・意欲向上につながり、企業･団体と若者が、共に受け入れ、共に高めあうことができたのは、期待していた通りの成果であったと思います。

インターンシップは、地域の活力につなげる有効な一つの手法

これまでも本市では、若者の UIJ ターンや地域企業へのインターンシップを図る取り組みについて、着実に取り組んできました。また、コロナ禍で、情報通信技術の進展や地方の魅力向上などにより、生き方・働き方の多様化が進むと考えられますので、これを地域の活力につなげるために、インターンシップは有効な一つの手法と考えています。今後も､「いわきアカデミア」をはじめ､効果的な実施体制･手法など､検討してまいります。



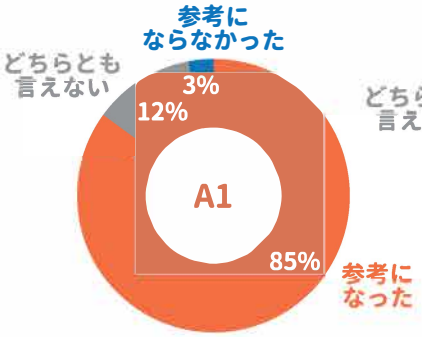
参加企業の声
プロジェクト例

企業の経営課題に新しい支援を。

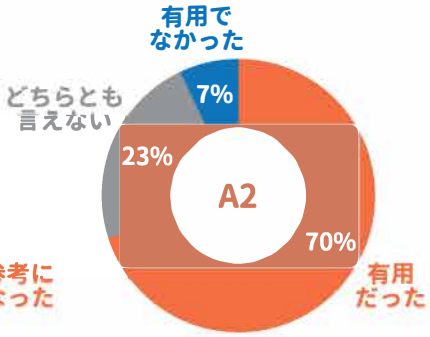
企業が抱える日頃取り組めない課題について、学生と一緒に解決を目指して取り組むことで、これまでにない新たな視点を取り入れることができます。また、学生たちを通じて社内に刺激を与え、業務プロセスの改善、働きやすい職場環境づくりなど、企業体質の改善が図れます。

85% の企業が学生からの提案を参考にしたと回答

Q1. 学生の提案は参考になりましたか？



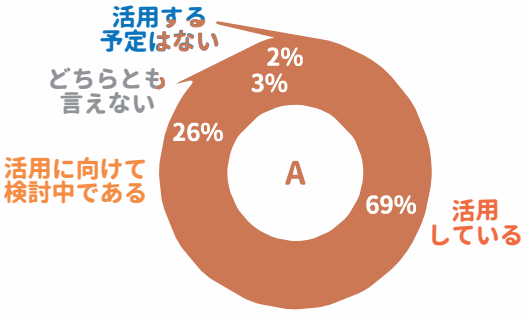
Q2. インターンを受け入れた結果貴社にとって有用でしたか？



- これまで取り組みたいと考えていても着手できなかったあらゆることが前進した。
- 今後の新卒採用に向けて、どんな育成プランが必要か肌で確認できた。
- 当社が抱えている課題と近未来に抱えるであろう課題についての改善案がヒントになった。
- インターンシップ受け入れを契機として、自社に不足している育成力を目の当たりにした。
- 学生がゼロから立ち向かう姿を社員が見て刺激を受けていた。
- インターン生からの質問を受けて、社内コミュニケーションが活発になった。
- 学生らしい素直な視点と客観的な視点とから、当社の特徴や強みを改めて見つめ直すことが出来た。

95% の企業が学生からの提案内容を事業に活用していると回答

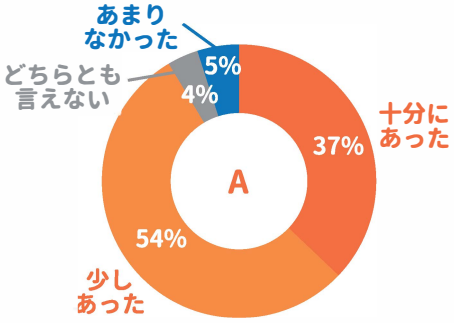
Q. 学生の成果物や提案内容は、その後事業に活用されていますか？



- インターン生の作品は地元商店街では人気のお土産品として定着し、町のふるさと納税の返礼品にも選定してもらった。
- 商品開発部門の立ち上げに参加していただき、メンバーの選定や部門の指針などを社員とともに決めていただいた。インターン終了後も社員のみで運営されており、立ち上げ１年目で品評会で入賞する商品を開発できている。
- ＨＰに掲載して、採用のアピールに活用。
- 移住定住の政策実現に向けて、役場で検討されている。

91% の企業がインターンシップを通じて変化したと回答

Q. その後、インターンの実施を契機に、変化したことはありますか？（貴社・貴団体以外の変化でも構いません）



- インターン生に教えることで、自分の仕事の棚卸をすることができ、伝えることで、言葉や文章表現がよくなっていると感じる。
- 報告会などを通じて多くの企業が参加するようになり、他業種の経営課題や様々なプロジェクトに触れることで、町の課題などを考えるきっかけになった。
- オンラインで、大学や企業をつなぐ案件や、地域情報を発信する需要が高まっており、新しい生活様式に沿った計画立案によい影響が出ています。

※「出所：2020 年度夏期インターンシップ終了後アンケートより」

プロジェクトテーマ例

地域・まちづくり

住民へのインタビュー、ニーズの調査、まちあるきなどを行い、学生ならではの視点で新たな魅力を開拓します。インターン終了後も継続できるようなしくみづくりを行うことで地域に根ざした取組を行います。

広報・マーケティング

あらゆる情報がスマホひとつで検索できる今、競合との差別化を図るためにもターゲットへの接触頻度を上げ、効果的な訴求を行うことが不可欠です。デジタルネイティブ世代の視点からアプローチ方法を探ります。

農林水産・６次産業

農林水産資源の減少や人口減少に伴う国内市場の縮小など、その土地ならではの名産品や地域経済を支える産業が抱える様々な課題を整理し、付加価値を加えることで、新たなビジネスモデルの確立を目指します。

こども・教育

こどもたちを地域で育て、こどもたちと一緒にまちづくりを進めることは、将来、地域で働く人を増やすきっかけとなります。それぞれの企業や団体が持つリソースを活かし、連携することで、こどもが生き生きと育つまちづくりを目指します。

医療・福祉・ヘルスケア

現代社会が抱える様々な課題にいち早く直面している地方都市において、誰もが活躍できる社会のしくみづくりは急務です。これからの社会を担う若い世代とともに、新しい医療や福祉のあり方を模索していきます。

観光・おもてなし

まちの成り立ちや歴史、地域特有の資源を紐解き、旅行者の様々なニーズに応じた新たな観光資源として活用することで、地域に観光客を呼び込むための施策づくりを行います。

プロジェクト例

限界集落でお届けサービスメニューモデルを創造する当事者になろう。

仕出しにしやま

【岩手県】北三陸

地域　食・ライフスタイル

子供が憧れる職業に！ 建設会社の魅力を伝える学生ライターを募集。

陸中建設 株式会社

【岩手県】宮古

建築・住・リノベーション

釜石の季節限定酒を多くの人へ届け、地域の飲食業界を盛り上げる。

株式会社 浜千鳥

【岩手県】釜石

文化・伝統産業　食・ライフスタイル

箱屋が挑む東北初トランポリンパークの集客拡大プロジェクト！

有限会社 藤田製函店

【宮城県】気仙沼

こども・教育　アート・スポーツ

安心して暮らし続ける町の買い物サービスモデル事業を構築しよう。

株式会社 御前屋

【宮城県】女川

小売り・流通　食・ライフスタイル

香港市場のトップシェアを狙え！ 宮城の牡蠣を売りまくる戦略立案。

株式会社 ヤマナカ

【宮城県】石巻②

海外展開・貿易・語学　食・ライフスタイル

地域の情報発信！ 福島発の福祉の魅力を伝えるライターを募集。

株式会社 はなひろ

【福島県】郡山・阿武隅

医療・福祉・ヘルスケア　地域

ファンの心をつかめ！「手作りヤギ石鹸」の販売戦略を策定せよ！

株式会社 かつらおファーム

【福島県】葛尾

小売り・流通　農林水産・６次産業

園を中心とした地域防災コミュニティを構築しよう！

学校法人 明照学園

【福島県】いわき・双葉郡南部

こども・教育　環境・エネルギー・バイオ

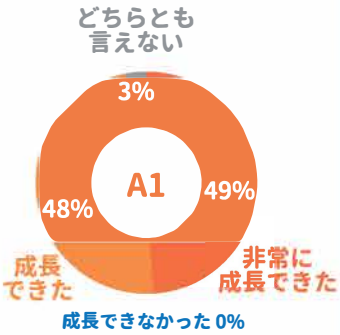
参加大学の声

正解のない問いへの挑戦が、成長の原動力に。

企業や地域に学生が飛び込み、自分たちに何ができるかを考え、実行する。そのプロセスの中で、知識・スキルだけでなく、価値観をアップデートし、自分の強みややりがいを見つける機会となります。

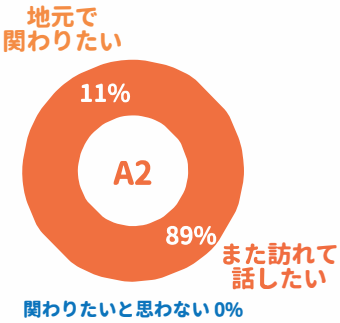
97%の学生がインターンシップで成長できたと回答

Q1. あなた自身が成長できたと思いますか？



- 新しいことに挑戦することへの怖さがなくなったこと。自分の考え方や行動、言葉に自信を持てるようになった。
- 壁にぶつかっても気持ちを奮い立たせて再挑戦する心を持てたこと。
- 実在する問題に対して状況を分析し現実的な解決策を考え、実践できた点。
- 意見を聞く力、想いを言葉にする力、コミュニケーションの取り方を身につけることができたこと。

Q2. 今後も参加地域と関わりたいですか？



- ここで出来た繋がりを続けていきたいし、今回出会えた人とまた会いたいから。
- 自然や人の良さに触れ、強く魅力を感じたから。地域のために何かできることを探したいと思ったから。
- 自分自身を大きく成長させてくれた場であり、お世話になった多くの人たちに恩返しがしたいから。
- これからも関わっていきたい魅力的な取り組みをしている企業だったから。

※「出所：インターンシップ終了後アンケートより　2017 年度～ 2020 年度前半累計」

担当職員の声

上智大学 学生センター
津屋 京子 さん

３年半にわたり、学生の受け入れを賜り、関係の皆さまに感謝申し上げます。現地企業の皆さまのご指導とともに、学生が主体的に試行錯誤をしながら活動させていただいた事がとても印象に残っています。そして、生活を共にすることで人生の先輩から、生きる姿勢を学ばせていただいたことが、何より大きな成長に繋がったのだと感じております。東京に留まっていては出会えない方々から受けた影響や当時の経験を、この後も思い返すことと確信しています。

東洋大学 国際学部 国際地域学科
柏崎 梢 先生

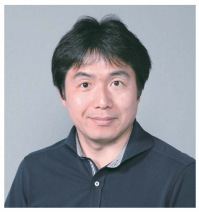
苦労話を楽しそうにしてくれる時に、一番の成長を感じます。うまくいかないこと、思ってたのと違うこと、思いがけないこと……。それが自然で、豊かな地域な証拠。学生まるごと受け入れ、主体的に活動させていただけるので、学生もすべてを受け入れ、成長につながることができるのだと思います。学生によっては、インターン終了後も再訪問したり、活動を色々なかたちで継続しており、地域とのつながりという可能性の幅と深さを、毎回感じています。

参加大学 210 校　参加学生 1,018 名

（2017 年度～ 2020 年度前半 合計）

（五十音順）

愛知県立大学／愛知工業大学／愛知淑徳大学／愛知大学／会津大学／青森公立大学／青山学院大学／アムステルダム大学／アメリカ創価大学／石川県立大学／石巻専修大学／茨城キリスト教大学／茨城大学／いわき明星大学／岩手県立大学／岩手大学／宇都宮大学／桜美林大学／大阪学院大学／大阪経済大学／大阪国際大学／大阪大学／大阪府立大学／大谷大学／岡山県立大学／岡山大学／小樽商科大学／お茶の水女子大学／香川大学／神奈川大学／金沢学院大学／金沢大学／関西外国語大学／関西大学／関西学院大学／環太平洋大学／神田外語大学／関東学院大学／北九州市立大学／北里大学／吉備国際大学／九州大学／共愛学園前橋国際大学／京都学園大学／京都光華女子大学／京都産業大学／京都造形芸術大学／京都大学／京都薬科大学／杏林大学／近畿大学／金城学院大学／熊本大学／熊本保健科学大学／群馬県立女子大学／慶應義塾大学／工学院大学／高知工業高等専門学校／高知大学／甲南大学／神戸学院大学／神戸市外国語大学／神戸大学／郡山女子大学／國學院大學／国際教養大学／駒澤大学／埼玉大学／産業能率大学／志學館大学／滋賀大学／静岡県立大学／静岡大学／静岡文化芸術大学／実践女子大学／島根大学／下関市立大学／自由学園最高学部／尚絅学院大学／城西国際大学／上智大学／昭和女子大学／信州大学／椙山女学園大学／スタヴァンゲル大学／成蹊大学／成城大学／清泉女子大学／西南学院大学／摂南大学／専修大学／仙台高等専門学校／創価大学／大正大学／大東文化大学／高崎経済大学／拓殖大学／玉川大学／多摩大学／多摩美術大学／千葉商科大学／千葉大学／中央大学／中京大学／中部大学／筑波大学／津田塾大学／都留文科大学／帝京大学／デジタルハリウッド大学／帝塚山大学／テンプル大学／東海大学／東京外国語大学／東京海洋大学／東京家政大学／東京経済大学／東京工業大学／東京国際大学／東京女子大学／東京大学／東京農業大学／東京農工大学／東京理科大学／同志社大学／東北学院大学／東北芸術工科大学／東北大学／東北福祉大学／東洋大学／常磐大学／徳島大学／常葉大学／獨協大学／鳥取大学／富山高等専門学校／長岡造形大学／長崎大学／長野県立大学／長野大学／名古屋学院大学／名古屋学芸大学／名古屋商科大学／名古屋大学／奈良教育大学／奈良女子大学／南山大学／新潟県立大学／新潟大学／日本女子大学／日本体育大学／日本大学／梅光学院大学／八戸学院大学／一橋大学／弘前大学／広島市立大学／広島大学／福岡女学院大学／福岡女子大学／福島学院大学／福島工業高等専門学校／福島大学／佛教大学／文京学院大学／文教大学／法政大学／北陸大学／北海道教育大学／北海道大学／宮城学院女子大学／宮城大学／宮崎公立大学／宮崎大学／武庫川女子大学／武庫川女子短期大学／武蔵大学／武蔵野音楽大学／武蔵野大学／室蘭工業大学／名桜大学／明治学院大学／明治大学／名城大学／明星大学／目白大学／安田女子大学／山形県立米沢女子短期大学／山形大学／山口大学／山梨大学／横浜国立大学／横浜商科大学／横浜市立大学／米子工業高等専門学校／酪農学園大学／立教女学院短期大学／立教大学／立正大学／立命館アジア太平洋大学／立命館大学／琉球大学／龍谷大学／和歌山大学／和光大学／早稲田大学／ Edmonds College ／ SOAS 大学／ UAL Central Saint Martins



名古屋学院大学
現代社会学部

榎澤 幸広 先生

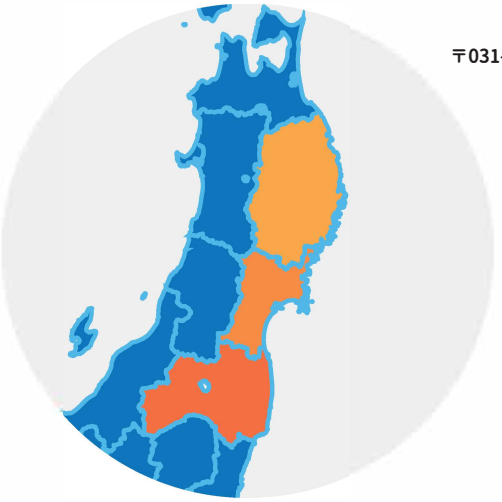
このインターンは、参加希望者との丁寧な面談に始まり、参加後は参加者による詳細な日報作成と提出、終了時は成果報告や事後研修と、この数か月の期間だけでは相当な社会人力が鍛えられる仕組みであった。これら終了後、うちの学部では学内報告会を義務づけているし、それ以外の機会も設けているが、参加学生に対する評価は内外ともに高い。また、現在もその地域との交流を続ける者もおり、その中には将来その地域に貢献できる人生設計を相談してきた者もいた。学生、学部にとってとても有意義なインターンである。

立命館大学
教学部共通課

横関 つかさ さん

参加前は「今の状態から自分を変えたいけど、何をすればいいかわからない」と漠然とした不安感を抱えながら現地へ飛び込んでいった学生も、日々本気で地域や社会の問題解決に取り組んでいる大人たちを目の当たりにして、自分も、と覚悟を決めて動き出し、そして、またそれを本気で支え、応援してもらえる。そんな「アツい大人とのアツい想いのやりとり」が学生の豊かな経験や成長へとつながっていく、本事業の大きな魅力であると感じております。学生の受入れにあたって関係の皆さまには多大なるご配慮をいただき、心より御礼申し上げます。

地域コーディネート機関



株式会社 バリューシフト
〒031-0042　青森県八戸市十三日町 15　八戸ニューポート内
050-5216-1422
【岩手県】
北三陸ブロック

特定非営利活動法人 みやっこベース
〒027-0084　岩手県宮古市末広町 8-24
0193-77-3809
【岩手県】
宮古ブロック

特定非営利活動法人 wiz
〒020-0866　岩手県盛岡市本宮 5 丁目 10-8-2
080-9017-7214
【岩手県】
宮古ブロック
大船渡・陸前高田・住田ブロック

株式会社 パソナ東北創生
〒026-0055　岩手県釜石市甲子町第 5 地割 72-2
080-3093-9520
【岩手県】
釜石ブロック

合同会社 colere
〒988-0535　宮城県気仙沼市唐桑町馬場 92-1　サンポートババ 2-1
080-4147-4592
【宮城県】
気仙沼ブロック

株式会社 ESCCA
〒986-0725　宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田 56 番地 2
南三陸町役場第 2 庁舎 2 階
090-8558-7384
【宮城県】
南三陸ブロック

一般社団法人 サスティナビリティセンター
〒986-0775　宮城県本吉郡南三陸町志津川字廻館 69 番地 15
050-5236-2263
【宮城県】
南三陸ブロック

特定非営利活動法人 アスヘノキボウ
〒986-2265　宮城県牡鹿郡女川町女川 2 丁目 4 番地
0225-98-7175
【宮城県】
女川ブロック

合同会社 巻組
〒986-0822　宮城県石巻市中央 2-3-14　観慶丸ビル 2 階
0225-24-6919
【宮城県】
石巻①ブロック

一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン
〒986-0827　宮城県石巻市千石町 8-20　TRITON SENGOKU
0225-98-7071
【宮城県】
石巻②ブロック

一般社団法人 ワカツク
〒980-0023　宮城県仙台市青葉区北目町 4-7　HSG ビル内
022-721-6180
【宮城県】
女川ブロック
仙台・名取・岩沼ブロック

特定非営利活動法人 相馬はらがま朝市クラブ
〒976-0042　福島県相馬市中村字塚田 72
0244-26-9127
【福島県】
相馬・双葉郡北部ブロック

特定非営利活動法人 コースター
〒963-8071　福島県郡山市富久山町久保田字下河原 191-1
024-983-1157
【福島県】
郡山・阿武隈ブロック

一般社団法人 葛力創造舎
〒979-1602　福島県双葉郡葛尾村大字落合字夏湯 134
0240-23-6820
【福島県】
葛尾ブロック

一般社団法人 TATAKIAGE Japan
〒970-8026　福島県いわき市平字白銀町 2-10
0246-38-6586
【福島県】
いわき・双葉郡南部ブロック

復興庁主催
令和２年度　復興・創生インターンシップ事業
事業報告書（概要版）